

**1. 今月の活動 ; 島諸国サミット、緊急雇用対策、世界保健総会決議、路上脱出ガイド****【 島諸国サミット 】**

南太平洋に広がる14の島国・地域等を招いた日本・太平洋諸島フォーラム首脳会議(太平洋・島諸国サミット)が5月22日・23日に北海道で開催された。世界的な新型インフルエンザの拡大も懸念されている今、主要な地球規模の感染症で引き続き拡大が懸念されている結核の削減にむけての支援も必要であるので、5月13日に日本リザルツでは、島諸国の結核対策をふくむ保健支援を積極的に行うよう要請書を外務省大洋州課に提出した。

島諸国の保健分野に絞って考えてみると、比較的広範な地域に少ない人口という特徴のため、費用がかかる病院・保健センターなどを設置しにくいという問題がある。そこで、これらの地域に住む人々を定期的に巡回診察・治療する船・飛行機・ヘリコプターを使ったモバイル・クリニックを日本の技術で作って太平洋などの島諸国に使ってもらうというアイデアはどうだろうか。島諸国の人々に結核・エイズ・マラリアといった地球規模の感染症や糖尿病などの生活習慣病の予防・発見・治療も含めた最低限の保健サービスを提供してもらえよう配慮することは、地球上の比較的豊かな地域に住むわたしたちの心意気でもある。同趣旨の意見記事が新聞にも掲載された。

**【 緊急雇用対策 】**

4月17日、公明党の外交防衛委員会が開かれ、経済危機対策に関して外務省との間で質疑応答が行われた。経済危機対策の一つとして、60億円程度の予算のもと、日本人専門家の海外への派遣により1,000人の雇用を創出する予定であることが発表された。その中でも、草の根技術協力拡大の一環である日本のNGO支援が目されるが、これは、開発途上国で実施されるプロジェクトに対し、当該事業に関わるNGO職員を、JICAを通して財政支援するものである。参考人として招致された、(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)の事務局長・下澤嶽氏、ジャパン・プラットフォームの共同代表理事・長有紀枝氏、ストップ結核パートナーシップ日本の代表理事も兼任している当会事務局長の白須紀子からは、事業を日本国内でサポートする会計担当などの支援の重要性や、継続的な支持が必要であるなど意見が出された。5月15日、外交部会で同様のメンバーと厚生労働省との会合では、今後3年間、総額7,000億円の緊急人材育成・就職支援基金(仮称)を設置する構想の説明があった。新規成長や雇用吸収分野等において、十分な技能・経験を有しない求職者を実習型雇用により受け入れるNGOを含む中小企業等に対し、一人月10万円(世帯主12万円)、雇い入れた場合は一人100万円を国から助成し、3年で7万人の雇用創出を目指すという説明があり、NGO側からの意見も踏まえ、現場の実情にあった運用を図ることなど詳細は引き続き検討されている。

**【 世界保健総会決議 】**

4月1日~3日、北京でWHO、中国保健省、ビル&メリンダゲイツ財団の共催で27ヶ国及び本件と密接な関係のある国の保健大臣、副保健大臣らが一堂に会した。これを踏まえて、5月19日、世界保健総会にて、結核対策と患者ケアにおける「北京“実行への呼びかけ”」~一緒の世界の多剤/超多剤耐性結核(M/XDR-TB)問題に取り組もう~声明が発表された。

リザルツは、政治家やメディアと協力し、貧困に苦しむ人々の声を政策に反映させ、「貧困と飢餓のない世界」を創ろうと活動している国際市民グループ(NGO)です。日本の他、米国、カナダ、英国、フランス、豪州、ドイツ、メキシコなどで活動しています。日本リザルツは1989年の発足以来、ODA(政府開発援助)政策において、貧困削減への費用対効果が高く、且つ、顔の見える援助政策について、政府に提言しています。リザルツのユニークな活動方法は、草の根の市民から、国務長官のヒラリー・クリントン氏、経済学者ジェフリー・サックス氏、元南アフリカ大統領ネルソン・マンデラ氏など世界の著名人達に至るまで、幅広い層の支持を得ています。マイクロクレジットでノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行のムハマト・ユヌス氏は、日本リザルツの名誉顧問です。

## 【 路上脱出ガイド 】

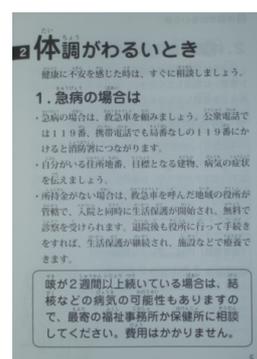
世界的な不況下でホームレス問題が深刻化しているなか、路上生活から脱出するための情報を集めた冊子「路上脱出ガイド(東京23区編)」が4月20日発行された。ホームレスの自立を支援しているNPOの「ビッグイシュー基金」や「自立生活サポートセンター・もやい」が中心となり、一般市民などが参加する同ガイド作成委員会が製作し、都内で無料配布を始めた。今年1月の大阪編に続く第二弾で、A5判四十ページ。「食べものがないとき」「仕事を探したいとき」等9項目に分け、ホームレスの自立支援団体など14民間団体の活動や、各区福祉事務所の支援サービスを一覧できるようにしたのが特徴。衣料の支給や炊き出し情報などがひと目で分かるよう工夫されている。既に初版5,000部を印刷し、ボランティアらが配布したが、約1ヶ月でなくなり、現在、6,000部を新たに増刷したが、その半分もあっという間になくなった。日本リザルツの西尾は作成準備会合に参加し、ホームレスの方々は結核に罹りやすいことを踏まえ、長引く咳が続く場合は結核の可能性があることを知っていただき、どう対処したらいいのかを5ページ、体調がわるいときの項目に入れていただいた。ボランティア向け講座に参加し、その後市民ボランティアらと共に新宿のホームレス約300人に同ガイドを配布した。\*路上脱出ガイド(東京23区編)をご希望の方は、西尾までお問い合わせ下さい。



路上脱出ガイド(東京23区編)

もくじ	
1	食べものがないとき 4
2	体調がわるいとき 5
3	仕事を探したいとき 7
4	今すぐ仕事をしたいとき 16
5	生活保護の申請について 18
6	その他の相談をしたいとき 24
7	23区内福祉事務所 応急措置内容一覧 28
8	民間で支援を行っている団体一覧 30
9	23区内福祉事務所一覧 37

もくじ 9項目



ココ!

体調がわるいときに(P5)・・・結核に注意!

## 2. ストップ結核パートナーシップ日本の活動

アフリカン フェスタ2009が、5月16日、17日横浜赤レンガ倉庫にて開催され、両日で18万人が訪れた。ストップ結核パートナーシップ日本、結核予防会、結核研究所、日本リザルツが共同ブースを出展し、結核の現状や問題の啓発、アフリカのザンビアでの結核対策プロジェクトの説明、ストップ結核のリーフレット(日本ベクトン・ディッキンソン社協力35,500部作成)等各種パンフレットの配布等を行った。この様子は、ストップ結核パートナーシップ(ジュネーブ)のニュースレターに掲載される予定である。また、活動報告ブースにおけるAMDA社会開発機構のロールプレイングを活用したワークショップへ日本リザルツの白須、西尾が参加。開発支援の現場で実際に起こり得る問題や関係ステークホルダーへの理解と対応について、多くの気づきと学びを得ることができた。



ストップ結核のリーフレットを配布する白須(右)



AMDAの出展ブースを訪ねて情報交換

### 3. マイクロクレジット(MC)

#### マイクロクレジット近況報告(6)

##### 【 草の根無償支援のMC拠出 】

ODA「草の根・人間の安全保障無償協力」枠からのマイクロクレジット(以下MC)へ拠出増額を訴え、5月15日に小川議員(自民党、衆議院、東京21区、私の地元)との2回目の面会を行った。同議員のお力添えで、外務省からは当枠担当者の出席をはじめ外務省から4名、JICAから2名と多く出席を頂けた。一方、日本リザルツから白須、西尾と岡本が参加し増額を訴えた。まず、2015年にむけてのミレニアム開発目標は達成困難。そして、このような状況下でMCが非常に効果的であることを世界銀行の調査データを使って説明。「草の根・人間の安全保障無償協力」から0.1~0.2%にとどまっているMCへの拠出を今後増やしていただくよう要請。これに対し外務省からはHP等に掲載しているが決してPRが十分でないことも認識されている様子、今後も増やして行けるよう努力していくとの言葉をいただいた。またJICAからは資金と技術の総合的な支援のアプローチをとっていき、途上国への支援を行っていきたいこと。さらには、MC関連の勉強会があるときはお声をおかけするとのうれしい言葉もいただいた。今後も外務省、JICA、現地MC機関との連携、さらにはPRの戦術等を含めMCへの拠出増額に向けアクションを継続予定だ。(つづく) シニアアドバイザー 岡本

##### 【 マイクロクレジット実施機関の透明性について 】

5月20日、マイクロクレジット(以下、MC)に関するアドボカシー・アクション戦略会議の第二回目が開催された。今回のテーマは、MC実施機関の透明性についてで、2008年アジア太平洋地域MCサミットで大きな議題となったマイクロファイナンス・トランスペアレンシー(以下、MFT)に焦点が当てられた。MCの透明性(利率設定の透明性)については、昨今のMC商業化と一部MC実施機関の高利貸し化によって、議論が高まってきた。一般に、MCでは、商業銀行より高く、高利貸しより低い金利を設定していることは良く知られているが、その設定根拠は明確にされてこなかった。MFTは、世界のMC実施機関でのオペレーショナル・コストと利益の関係をデータ化し、理想的な貸出金利を理論的に計算、広く周知させることによって、顧客が保護されることを目的としている。MFTはまだまだ始まったばかりだが、これまで問題とされながら解決法を見いだせなかった利率の透明性を解決する上で、非常に注目されている。

### 4. パートナー ボランティアの皆さまからの声

「マイクロクレジット(以下、MC)実施機関の透明性について」のアドボカシー・アクション戦略会議に参加された有村さんは、「国際協力やMCに興味があり、日本リザルツのホームページを見て市民参加型のアドボガシー会議があるということを知り、面白そうだったので参加しました。実際の政治や日本全体のこと、国際的な問題などに関わり、様々な関係機関と交渉し、国に政策提言をしている日本リザルツは、数あるNGOのなかでも貴重な存在である、と思います。」と話して下さいました。また、マンスリーレターの発送作業に遠く岐阜から毎月駆けつけているボランティアの高木さんは、「事務局長の白須さんとは、骨髄バンクのボランティアをさせていただいていた当時からのご縁で、少しでもお役に立てたらいいな、という想いで今もお手伝いさせていただいています。今回は私の地元の友人もお連れしました。いつも多くのボランティア仲間の皆さんとご一緒にワイワイ言いながら、楽しく作業をさせていただいております。」という声を寄せていただきました。



アドボカシー・アクション戦略会議の様子



マンスリーレター発送作業中のボランティアの皆さま



## 5. アドボカシー・アクション戦略会議 / 説明会の開催スケジュール

～内容や日時等が変更されることもございますので、詳しくは、日本リザルツのホームページをご覧ください～

### 【アドボカシー・アクション戦略会議】

「国際的な結核の問題について」	7月 1日(水)	午後7時00分-8時30分
「国際連帯税の導入に向けた動きについて」	7月 4日(土)	午後1時00分-2時30分
「マイクロクレジットについて」	7月 15日(水)	午後7時00分-8時30分

【説明会(日野市)】「日本リザルツの活動について」 6月 21日(日) 午後3時00分-4時00分

## 6. お知らせ

### 【太平洋保健会議】

6月16日(火)～18日(木) アメリカ・シアトルにて開催。結核研究所の石川所長、日本リザルツの白須が出席予定

### 【ストップ結核パートナーシップ日本(STBJ)常任理事会】

6月24日(水) 午後4時30分～午後5時30分 結核予防会の水道橋ビル・小会議室にて開催

### 【世界の医療団・講演会】

6月25日(木) 午後7時～8時30分 「人道支援とは？」 東京日仏学院にて開催

### 【国連の経済社会理事会(Economic and Social Council)】

7月6日(月) - 9日(木) 2009 ハイレベルセグメント会合が、ジュネーブにて開催。ストップ結核パートナーシップ日本(STBJ)も招待され出席を検討中

### 【国際連帯税を推進する市民の会(アシスト)第2回勉強会】

7月10日(金) 午後6時30分～ 横浜市立大学准教授 上村雄彦氏「通貨取引(開発)税の実現可能性をめぐって」

\* どなたでも参加することができます。お誘い合わせの上ご参加下さい。

### ご支援に関するお願い

年会費のお支払いに便利な自動引き落としがご利用いただけることとなりました。皆様方、また事務局に取りましても、煩雑な手続きが円滑になるシステムです。「貧困は博物館にあればよい」というノーベル平和賞受賞者ムハメド・ユヌス氏(当会名誉顧問)の言葉と、「私たち一人一人に世界を変えていく力がある」というリザルツの活動理念を大切にして、これからもスタッフ一同、鋭意励んでまいります。今後ともご指導、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

年会費：個人) 正会員 1万円 法人) 正会員 10万円(一口)

賛助会員 5千円

お申し込みはお電話にてご連絡下さい。電話：03 - 5280 - 2888

当マンスリーターに関するご質問・ご意見などございましたら info@results.jp までご連絡ください。

ご寄附のお願い：世界の貧困・保健問題の解決のため、政策提言活動を行っております。持続的な活動を続けるためにご支援をお願いいたします。郵便局の払い込み用紙に、口座番号00170 - 9 - 581459(加入者日本リザルツ)とご記入ください。